

会 議 録 (案)

会議の名称	令和4年度 第3回西東京市環境審議会
開催日時	令和4年10月12日(水) 午後6時から7時50分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎5階 502・503会議室
出席者	【委員】国眼委員、矢守委員、松本委員、泰江委員、田中委員、赤司委員、大上委員、高木委員、村田委員、山縣委員 【事務局】白井一嘉みどり環境部長、中澤環境保全課長、一之瀬係長、三城主査、鹿島主査 【傍聴人】 0名 【欠席者】 0名
議 題	1 開会 2 議題 (1) 第1回、第2回西東京市環境審議会会議録(案)の確認について (2) にしとうきょう環境アワードについて (3) 西東京市第2次環境基本計画後期計画の施策の進捗について (4) その他 3 閉会
会議資料の名称	資料1—1 令和4年度第1回西東京市環境審議会会議録(案) 資料1—2 令和4年度第2回西東京市環境審議会会議録(案) 資料2—1 にしとうきょう環境アワード選考基準 資料2—2 にしとうきょう環境アワード応募者一覧 資料2—3 にしとうきょう環境アワード活動実績調書(個票) 資料2—4 にしとうきょう環境アワード選考表【当日資料】 資料3—1 令和3年度西東京市第2次環境基本計画後期計画の重点プロジェクトの進捗について 資料3—2 指標及び目達成状況確認表 資料3—3 施策事業進捗状況確認票【第5章】 資料3—4 施策事業進捗状況確認票【環境基本計画巻末 資料2 計画に関連する主な事務事業】
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><1 開会> (中澤環境保全課長より開会のあいさつ)</p> <p><2 議題> (1) 第1回、第2回西東京市環境審議会会議録(案)の確認について ○会 長： 西東京市環境審議会会議録(案)の確認について、事務局より説明をお願いします。 (事務局より西東京市環境審議会会議録(案)の確認について説明)</p>	

○会 長： 事務局から説明ありましたが、いかがでしょうか。追加の修正等はありませんか。なければ、会議録については、ご承認をいただいたということでよろしいでしょうか。

異議なしと認めます。会議録については承認をいたしました。

それでは、（案）と委員の名前を消したものでよろしく願います。

(2) にしとうきょう環境アワードについて

○会 長： にしとうきょう環境アワードについて、事務局より説明をお願いします。

（事務局よりにしとうきょう環境アワードについて説明）

○会 長： 資料を読んで何か意見あれば挙手をお願いします。

○委 員： 環境アワードは、今年度初めての企画で、応募期間も短かったが33の応募があったのは非常に良かったと思います。これからも環境アワードを続けるなら、学校部門と一般部門に分けて、応募者が増えるようにしたら良いと思います。また、団体だけでなく個人でも出せるような企画があると思います。

○事務局： ありがとうございます。

○会 長： 一般部門と学校部門に分けるという意見はどうでしょうか。

今回応募があった33団体の取組を読んで、ここは面白いのではないかと感じられるところに特別賞を与えてもいいかと思いますが、いかがでしょうか。

○委 員： あった方がいいと思います。出せば賞がもらえる、良いものは表彰されるというのがあると刺激になり、市民の関心が強くなるのではないかと思います。

○副会長： 応募すれば皆に賞をあげるというのはつまらないと感じていて、スプレッドシートで投票し、上位3つもしくは2つを特別賞なり、特別な扱いとして表彰する方がモチベーションも上がるのかなという気がしました。前提として、学校部門と一般部門に分ける方がいいと思います。

○委 員： このアワードに応募したところが、どこで何をやってるのが内輪の中だけ理解しているというのはどうかとあっていて、一般市民への周知の方法として、一般市民の方を巻き込んでいくという形で環境活動に意識をもっと展開していく方が効果は生まれやすいのではないかと個人的には思います。

○事務局： 環境アワードの目的は、環境活動を広く紹介していくということです。紹介の仕方としては、市のホームページやSNS発信などを基本路線でやっていくと認識しています。それと、基本的には皆さんに表彰したいという意図はありますが、その中でも優秀な方、特徴的な方に特別賞をあげるとい

うことが1つのモチベーションに繋がると思うので、そこも加えた形で今回の環境アワードをやりたいと思っています。

○会 長： ここである程度どの学校、団体に特別賞を与えるかという議論をした方がいいのかもしれませんが、時間がかかりそうなので、期限を区切り良いと思う3つを事務局の方に連絡するというやり方でよろしいでしょうか。

○事務局： 委員が表彰に値するかどうか判断をし、その中でも特徴的で特別賞を渡せるものを報告していただき、それを事務局の方で集計し特別賞を決定するという趣旨でよろしいでしょうか。

○会 長： はい。間に合いますか。

○事務局： 11月13日の環境フェスティバルで表彰することになっており、表彰する方やこの33団体の皆さんにも事前に通知する時間が必要なので、あまり時間がないため1週間ぐらいで報告していただければと思います。

○委 員： 委員でメールを使えない方はいますか。大丈夫ですね。

○会 長： 特別賞については来週いっぱい判断していただき、良いと思うところを事務局へ報告するという内容でいかせてもらいたいと思います。

その33団体が表彰に値するかどうかについては、今日審議しておきたいと思うのですが、どうでしょうか。

○委 員： 参考までによろしいでしょうか。学校は教育活動の一環としてやっているもので、内容的には似てるところが多く、裏を返せば他の学校もやっています、出そうと思えば出せるはずです。

特徴的な取組として最後の田無一中を紹介させてもらおうと、前山本校長がSDG sを教育活動の最初のところにあげて、総合的な学習の時間の中や部活動でSDG sの取り上げながら学習をしていくというところに少しこだわりをもって進めていました。それを新しい校長も引き継いでいて、部活動も生徒会も特別支援学級の子供たちも参加しているところなど、石を投げたら波紋が広がるように結構工夫してやっています。そこは田無一中の特徴的な取組という風に捉えてもらえたらと思います。

委員の方々のいろんな考え方がありますが、田無一中全体に特別賞を与えてもらえると、中学生を目標にしながら小学生も学ぶサイクル、教育活動の連続性につながっていくと思うので、紹介させてもらいました。

○委 員： 31, 32, 33全て田無一中ですが、1つ選ぶ話はどうなるのでしょうか。

○会 長： 田無一中、学校全体としてというのもいいと思います。

○委 員： 事務局から提案があったように、全て表彰されるというのは学校としては大変ありがたいです。優劣というよりも価値づけてもらうことが、子供にとってもモチベーションが上がります。その中でも、特徴的な取組をしている所にもう1つ表彰されると、子供達も実感でき、さらにモチベーション

が上がるかなという意見です。

- 会 長： 委員が言われたように、この中で特徴的な学校があれば、学校部門は今日決めてしまい、残りの一般の方は宿題という形にしてもいいかと思うのですが、どうでしょうか。
- 委 員： 私も学校現場の狭い視野でしかないのですが、広く委員の方の意見を聞かせられれば、第2回、第3回のアワードの時に、色々なやり方もあるということがこちらの立場しても言えるのかなと思っています。
- 委 員： 選び方ですが、例えば一般、学校から1つずつなのか、全体の中から3つ選ぶのか、各セクションから1つずつ3つ選ぶのかなどルールを決めてほしいです。
- 委 員： 賞を与えることによって、賞をもらえなかったところから説明を求められた場合、我々委員は活動内容に対して、何をどういう風に評価したのかを具体的に答えられるようにしておかないといけないのではないのでしょうか。
- 委 員： 選んだ根拠に対して、我々委員は責任を持って対応しないとイケない。
- 委 員： 資料を一通り見た時、やはり小学校の方に目がいきますが、だいたい緑のカーテンやエコキャップを集めるなど、教育の一環でしていることを子供達は一生懸命やっていて、そこを表彰しないのはどうなのかと思いましたが、ただ、この中でも使い捨てカイロを回収するというのは他にはなかった取組で、カイロをどこで集めているのかも私は知らないのですが、応募して賞を取ったことを親に話すことで、理想としている形が伝わっていくと思います。なので、珍しい取組は先生方が力を入れているということが目に見えているので、表彰してあげるところかと思いましたが。
- 委 員： 他の市に出向して似たような話はしていましたが、委員会の中で決めるのは初めてなんです、何か事例というのはあるのでしょうか。
- 事務局： 審議会の中で決めるという事例は認識してないです。環境市民会議があって、その中で決めたというのはインターネットで調べたことはあります。
- 委 員： 初めての試みという話で、資料はしっかりまとめられていますが、資料だけで読み取れることは限られてて、委員が言われたみたいに、委員が何の根拠で何が分かって選んだのかと言われた時にどう答えるのかなと思います。
- 会 長： そういう意見も出てくると思っていたので事務局としては、応募してくれたものは応募要件にあてはまっていれば、特別賞というものはないが、今後も継続してほしいので平等に表彰するというのがいいのかなという意見があり、皆さんに審議してほしいということでした。
- 委 員： 先程みたいに、中学校全体で選ぶことが、戦略的に非常に波及効果が大き

いということを教えてもらえれば、特別な別の賞を作りプラスアルファで賞状1枚増やす方法もあるのかなと思います。

○委員： 学校が選ばれることが前提みたいになっていたので綺麗な感じなんですけど、企業だと宣伝効果みたいな感じになってしまうので、なおさら「賞」という言葉ではなく、「今年度のピックアップ」という言い方がいいのかなと思います。

○委員： いつの間にか「西東京市認定」という言葉に変わってってしまう感じがあるかもしれないです。

○委員： 小学校の応募が多いですが、出てない小学校があるのではないですか。

○事務局： 学校に関しては、委員の方から依頼しているので、応募にまで至らなかったところは、もう出なかったという判断でいいのかと事務局のほうでは考えています。

○委員： 学校には私の方から全部声かけました。出てないということで何かあった時は学校がちゃんと説明すると思いますので、そこはあまり気にしないでいいのかなと思ってます。

今回、アワードという新しい企画があって、学校は第1回目を突破口にいくだけでも次に繋がることのできるし、もしかしたら世界規模とかいわゆるこれからのことを狙っているところも含めて伸びしろがあるので、期待してもらってもいいのかなと思います。

○委員： 学校から出てくる内容は、総合学習の一部が多く、今言われてるようないつもやっているということになると思います。ただ、アワードという企画に応募するチャンスが平等なのであれば、応募しているところはポテンシャルがあるということで、この会の責任においてサポートしていくと、西東京市のゼロカーボンシティの目標に沿った活動の一部として我々も貢献できるのではないかと思います。

活動している人は褒めてみんなでやろうというムードが大切だと思います。

○委員： 学校の場合は全校朝礼とかで賞を取ったんだということを発表できる場があれば、子供達に周知され良い事なので、賞状かシンボルみたいなものを与えて、見れる場所に置いたり出来れば、環境に対し意識をもたせるという意味でいいことなのかなと思います。参加賞という形が全体的に効果的ですし、むいているのではないかと思います。

○会長： 冒頭では特別賞があってもいいのではないかという意見があったと思うんですけど、色々考えると、応募してもらったところ全部に対しては表彰するけど、ここで優越はつけない方がいいという意見に近いのかなと思いますが、どうでしょうか。

今回は特別賞という「賞」をあえて設けずに、皆さんに広く表彰するという事でよいのかなと思ってるんですけど、どうでしょう。

- 委員： 学校は緑のカーテンをすると、項目が決まっているのでしょうか。
- 委員： 教育課程の編成は校長の責任においてあるので、緑のカーテンをやるやらないは学校の特色になっています。マストではありません。
- 委員： そうであるなら、力を入れてるところは認めて後押ししてあげると、それがまた浸透して、できそうなものから下が上がってくるのかなという気持ちはあります。
- 委員： 応募した方は、このアワードに該当するであろうという取組を応募しており、実際内容も合致していると思うので、皆さんに賞をあげられるのかなと思います。ただ、他と優劣の面で差は付けないけど、審議会の委員が気になった取組、面白い取組を2部門で何個か理由と共に決め、数が多かったものを紹介するという形にするのがよいのではないのでしょうか。賞がみんな同じだと、毎年同じ取組でいいのかとなって勿体ないと思ったので、何か他と違う取組をピックアップして紹介できると、単純に勝ち負けでなく、好奇心からその取組を見たいなっていうところが出てくるのかと。この後さらに環境アワードに応募してくるようになり、その中でも面白い取組が出てくると、それがまた翌年以降さらに広がり良い形で循環していくのではないかと思います。
- 副会長： 1つだけ質問なんですけど、今回環境アワード受賞の応募者の方々は何かの時に来てもらうのですか。
- 事務局： 11月13日に環境フェスティバルを開催します。そこに受賞者を呼び、市長から賞状を渡すセレモニー的なものを考えています。
- 副会長： その時スポットライト的に、こういう面白い取組がありましたと紹介するのが良いと思います。それがホームページとかいろんなところに載るのでしょうか。
- 事務局： ホームページに掲載します。
- 副会長： 特徴的な学校などを紹介する形でいいのかなと感じました。
- 会長： 敢えて特別賞という1つ上の賞を作るのではなく、みなさん平等にアワードを渡すけど、応募があった活動の中で特徴的、面白かったものを事務局の方で2、3個選んで取りまとめてもらうような感じですか。それを、環境フェスティバルの時に、委員の中から面白いなどの意見が多かった取組の紹介をしてもらうことはできます。
- 会長： 事務局からの説明に対して、何か意見、質問等ある方は挙手をお願いします。
- 事務局： どのようなものにするかは、こちらの方で検討させていただきます。

- 会 長： 委員のみなさん持って帰って読んでいただいて、2、3つ面白いと思うものを選び、理由をつけて事務局に提出してください。
- 委 員： 学校は小学校と中学校に分ける必要はありませんか。
- 委 員： 子供たち1人1人の取組みに価値づけしていただくというのはとてもありがたいことです。教育的な配慮からすると、子供達みんなにアワードをいただけると、子供がもっと伸びていくということは言えます。
- 委 員： この33個の中から3つ選ぶというのは漠然としてやりづらいです。評価の軸をある程度を定めてはどうでしょうか。例えば緑のカーテンは同じだけど、カーテンを学校の3階まで大きく作ったのが他とは違ったとか、当たり障りなく、それでいて他とはちょっと違って、来年に向けて見つけられるようなそういったことです。
- 会 長： 判断基準は、自分の中の選考基準があると思うので、理由を一言書いてもらいながら選考してもらえばいいのかなと思います。
- 委 員： 選び方を統一しておかないと、集まった時にすり合わせがいるんじゃないのかなと思います。
- 委 員： 特別賞をつけるという形ではなく、どういう取組が特徴的だったかを、委員が文章としてメールで返し、事務局の方で決め、こういう取組が面白かったというのを文言として発表するのでいいのかなと思います。それと、取組を来年のアワードの時に同じ学校、同じ組織が同じものをやった場合でもアワードの参加になるのかということころです。同じテーマでは翌年ダメですという風にあえて厳しくした上で全体を巻き込むと、企業がやろうとしてることを学校が真似たり、学校がやることを企業が真似たりということで、全体的に刺激合いにもなり、市民にも意識が生まれたりするのではないかと思います。
- 会 長： 委員の意見からいくと特別賞を設けるのはやめましょうというお話でした。
- 委 員： 特別の選び方がとても難しく、1つは2部門から選ぶというやり方や、表彰の範囲のところのカテゴリズ毎に選ぶというやり方もできると思います。評価の軸がない中で、それぞれが独自に思いついた感覚で選んだら、話しもまとまらなくなるような気がします。
- 会 長： 事務局としては、全体的に相対的な評価というか、この基準に対してこういう取組をしてるというものを応募してくださいという感覚でいて、項目について優劣をつけることは望んでないですね。
- 事務局： 委員が言うように、表彰の範囲に分けて考えるとすっきりするのかなというのはあるんですけども、当初の考えは全ての中からどれかよいものがあれば表彰し、更に特別賞を設定するのであれば、この中で特徴的なものが

あれば総合評価して、それに特別賞を与えようと思っていました。

- 委員： 省エネルギーという発想と緑の保全という発想を同じ軸でどう比較するのか全然イメージできないです。
- 委員： 他の方の取組はどのように周知させるのでしょうか。ホームページなのか、冊子を作って参加したところに全部配るのでしょうか。そうすることで、他のチームがどういう考えで取り組んでいるんだろうとこのを知ることができるのではないかと思います。今回出されたチームだけでなく、市民の皆さんにはどういう形で周知するのでしょうか。
- 事務局： 市民の周知方法としては、ホームページが中心になります。そのホームページを上げた時に、TwitterやSNSでホームページを見ていただくように誘導していく流れになるのかなと思っています。
- 委員： 環境アワードの募集をした時、活動内容を教えてくださいと言っただけでは、多分33件も集まらなかったと思います。やっぱり私は順位とかではないけれど、真新しい環境の取組をしているところは、ホームページや表彰式とか認められるような場所を与えないと浸透はしていかないので、そこは評価してあげた方がいいのかと思います。
- 会長： 環境保全課の方も、どんな活動してるかを広く市民の方に知っていただきたいと思っています。優劣をつけるのではなく、情報発信の方をどういう風にしていくのかを考えた方がいいのかもしれません。
- 委員： 賞のネーミングは別として、表彰されたということ子供達が家で話すようになると、そこでまた浸透していくのかなという気がするので、表彰するというスタイルは必要かなと思います。
- 会長： 特別賞とかは今回設けずにアワードを渡して、それを市の広報やホームページでPRして、今後の継続的な活動にもっていってもらおうという内容でよろしいでしょうか。
- 委員： 全員にアワードを与えるのはいいと思います。特別賞という名前は良くないかもしれないが、やっぱりいいものに対して私は表彰してほしいです。子供達にそういう機会は大切なんではないかと思っています。
- 委員： 環境アワードは来年第2回とかやられるのでしょうか。
- 事務局： やる予定です。
- 委員： 今年第1回ということで、判断基準が定まっていなと思うのですが、来年度は事務局がどういう絵を描いて次回やろうとしてるかをお聞きしたいです。
- 事務局： 基本的には続けてほしいので表彰はしますが、昨年と同じことをして表彰するのは違うかなという思いもあります。なので前年とは違うものに取り組んでもらい、それに対しては表彰することもありますし、もし前年と同

じものでも、成果として数値的に大きく向上したとかいうことが見られれば表彰することはあるのかなというイメージはあります。基本的には新たなことの取組に対して表彰するのがいいのかなと思っています。。

○委員： その時の表彰というのは特別賞の話なんですか。

学校は子供達が引き継いで同じことやっていて、それはそれで意味のあることです。

○委員： 一般的に参加した人には賞を与えるというのは全員賛成ですが、特別のものを表彰するということについては、考え方に差があると思いますが、判断基準は資料2-1に選考基準というのがあるので、これに沿って各委員がプロジェクトから選べば、公にした情報と我々が選んでる根拠が一致するのではないのでしょうか。

○委員： 本当は、取組み全部を見て回りたいぐらいです。

○委員： 今回第1回目ということで、過去との相対評価ができないというところできくと、今回はなしだけど次回以降特別賞をつけるというのが周知されていくと、参加組織が自然発生的に増えて、いつか上げ止まりでマンネリ化が起きてきた時に、どこかのタイミングで刺激策として特別賞を与えるというのも1つなのかなと思います。

アワードの目的は、西東京市がゼロカーボンシティに向けて何を取り組んでるかということ、公に出来る状態のものを集めていくことでいけば、最初は参加者33だったのが、来年は倍になってますというふうに市としてゼロカーボンに向けて右肩上がりですと進めてますという具体的なアピールができるようになるのが1番の目的なのかなというふうに思っています。

○委員： 来年違うことをやらないと賞を貰えないというのもどうかと思います。緑のカーテンも土や苗の用意、水やりなどの過程があり、それを毎年続けることが凄いことです。凄さを競うのではなく、続けることに着眼するのもいいと思います。

○委員： アワードの目的は申し込むことではなく、例えば今年は緑のカーテンだけど、来年違う取組になったとしても緑カーテンは終わりではなく、そのまま継続し、5年後、10年後に緑のカーテンが学校全体になりましたとなった時に、それこそすごい価値が生まれます。実際結果としてアワードに申し込んだ取組と関係なく、誰が見ても目を見張るような結果が生まれた時に特別賞として市がピックアップするのが一番いいのではないのでしょうか。

○会長： 今回は第1回ということで平等という形で皆さんにアワードを渡して、第2回の時は去年より良くなってるというところに参加賞ではなくてアワードを強化してあげてもいいのかなと思います。

もう1つ提案したいのは、継続制というところで、継続の軸を2050年のゼロカーボンにもっていくのか、今回の西東京市の後期計画最後にゴールをもっていくのかというのがありますが、3年、5年、10年連続けるとアワードを渡すにしても色や枠、名称が違ふとかいうのがあってもいいのかと思うのですがいかがでしょうか。

○委員： 学校の特色として続いていくことが大切なので、変わったからやめてしまったという事にならないようにしています。

今後西東京市で、コミュニティスクールという地域で子供たちを育てていく施策を進めて行きます。学校というより地域の皆様と一緒に子供を育てていく中で、学校単位が地域単位になって、地域が環境をキーワードにして活性化するような、コミュニティスクールというの1つ視野に入っています。なので、応募の仕方も含めてまた違った形が出てくるのかなと思っています。

○委員： 田無一中が何個か出していたりすると思うんですけど、一番取組が多かったところを選ぶやり方をすると、判断基準は数字ですと言えるので、賞としてありなのかなと思います。

数が多ければ多いほど取組は増えていくので、市がやろうとしていること含めてポジティブにしかならないので、そこで競うのはいいことだと思います。

○副会長： 今年度は平等にアワードを渡して、特徴的なものには我々が1個1個文章を書き、公表の時にそれを付け加えるという形にして、来年度の選考基準を違う機会にしっかり用意したらいいのかなと思います。

○会長： 今日は方向性を決めてしまおうかと思っているんですけど、まずアワードについては全員にあげて、特別賞になるのか名前は別にし、上の賞をあげるのは審議を通じて来年に向けてやっていきたいと思います。事務局の方でも案を我々も含めて考えていけたらいいかなと思っています。今回特別賞はないにしても、特徴的な取組には委員の中から評価が高かった、意見が多かったというのは渡した方がいいですよ。

○事務局： いただけると格好がつくと思います。

○会長： 来週いっぱいくらいまでに出していただいてよろしいでしょうか。応募の中からもいくつでも特徴的なものを吸い上げてもらう感じでよろしいでしょうか。

○事務局： 補足で説明をさせていただきます。本日、資料ナンバーつけずにお渡しているにしとうきょう環境アワード参考資料というものがあります。これは、我々事務局の方で各団体の中で、この判断基準は表彰範囲含めて該当するなというものを書きました。ただ委員の皆様で違う視点で見た時に、評価

基準が違うとか、表彰の範囲が違うなどというのもあると思うので、参考として扱っていただければと思っています。

(3) 西東京市第2次環境基本計画後期計画の施策の進捗について

- 事務局： 議題2については以上ということで、用意していた議題3の第2次環境基本計画の進捗状況は資料も多く説明も長くなってしまうことから、次回にさせていただきますいただければと思いますが、いかかでしょうか。
- 会 長： アワードに時間かけたいというのはあったので、進捗状況は次回ということでよろしいでしょうか。

(4) その他

(事務局より、次回会議の日程調整についての説明)

- 事務局： 次回第4回の審議会につきまして、1月16日の週で設定したいと思っています。また、次の第5回ですが、2月6日の週で考えていただければと思います。会場は田無庁舎と考えていますのでよろしくお願いいたします。
- 会 長： 提案がありました1月16日と2月6日の週で決めてしまいたいとのことなのですが、都合が悪い日はありますか。
- 副会長、委員：月曜日と木曜日は都合が悪いです。。
- 会 長： 水曜日がいいのかなと思うのですがどうでしょう。
1月であれば1月18日、2月であれば2月8日の水曜日の18時からでいかがでしょうか。場所は事務局の方から連絡します。
- 委 員： 応募についてですが、学校含めて団体だけのような気がしますので、できれば個人から応募ができるような工夫があってもいいかなと思います。
- 事務局： 一応チラシの方では活動を行う個人団体事業者とは書いていますが、それでも個人が応募されないというところですね。分かりました。
- 会 長： 応募のPRの仕方ですね。口コミも大事で、我々もPRしていかないといけないのかなと思います。それはまた次回ということで。

<3 閉会>

- 会 長： 本日の会議は以上となります。ありがとうございました。

以上